



2016年3月期第2四半期 決算説明会

東京製綱株式会社

(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2015年11月27日

目次

1. 2016年3月期第2四半期決算概要

2. 2016年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

1. 2016年3月期第2四半期決算概要

2. 2016年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

2016年3月期第2四半期 決算ポイント

前期売上計上した海外橋梁プロジェクト終息による減収も、全セグメント黒字化で営業増益

売上高 310億36百万円〔前期比 $\Delta 9.0\%$ 〕

海外橋梁プロジェクト案件（イズミット湾横断橋向けケーブル）の終息および、原油安に伴う石油製品の売上減少により減収

営業利益 15億7百万円〔前期比 $+33.1\%$ 〕

スチールコード・開発製品・不動産の収益改善で、全セグメント黒字化達成

**親会社株主に帰属する
四半期純利益** 6億15百万円〔前期 18億60百万円〕

前期対比では、為替差損益： $\Delta 5.3$ 億円、特別利益の減少： $\Delta 4$ 億円（前期は有価証券売却益、事業譲渡益計上）、法人税額の増加： $\Delta 3.1$ 億円の影響で最終減益

2016年3月期第2四半期 決算ハイライト

(金額:百万円)

	15年3月期第2四半期		16年3月期第2四半期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	34,106	—	31,036	—	△3,070	(△9.0%)
営業利益	1,132	(3.3%)	1,507	(4.9%)	+375	(+33.1%)
経常利益	1,570	(4.6%)	1,041	(3.4%)	△529	(△33.7%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,860	(5.5%)	615	(2.0%)	△1,245	(△66.9%)

セグメント別の状況(売上高)

鋼索鋼線：海外エレベータ用ロープ、繊維ロープともに増収

スチールコード：市況悪化に伴う中国タイヤコード販売数量減により減収

開発製品：海外橋梁プロジェクト案件(イズミット橋)終息の反動で減収

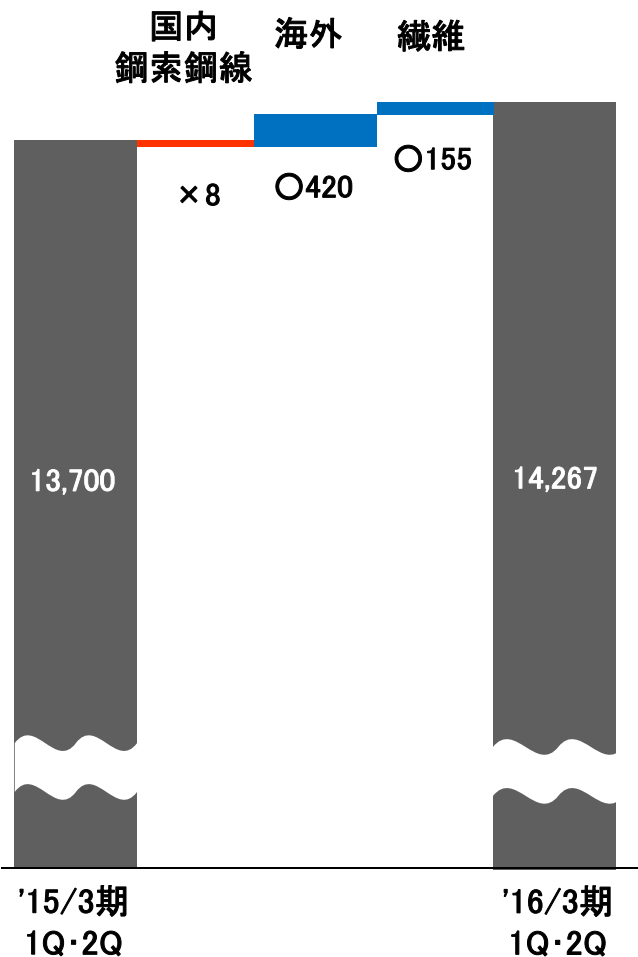
(金額:百万円)

	15年3月期第2四半期		16年3月期第2四半期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	13,700	(40.2%)	14,267	(46.0%)	+567	(+4.1%)
スチールコード	7,331	(21.5%)	6,711	(21.6%)	△620	(△8.5%)
開発製品	8,168	(23.9%)	6,101	(19.7%)	△2,067	(△25.3%)
不動産	565	(1.7%)	632	(2.0%)	+67	(+11.9%)
その他	4,340	(12.7%)	3,323	(10.7%)	△1,017	(△23.4%)
合計	34,106	(100.0%)	31,036	(100.0%)	△3,070	(△9.0%)

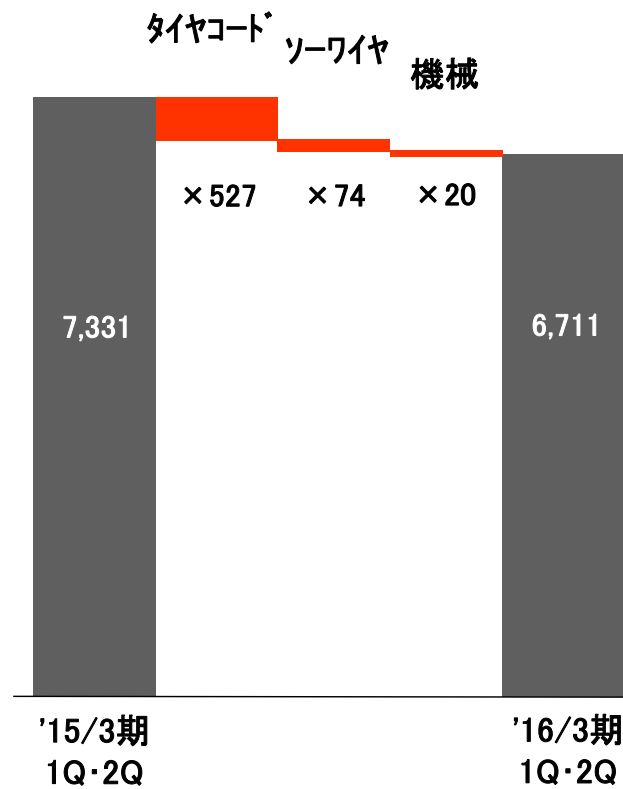
増減要因分析(売上高)

(単位:百万円)

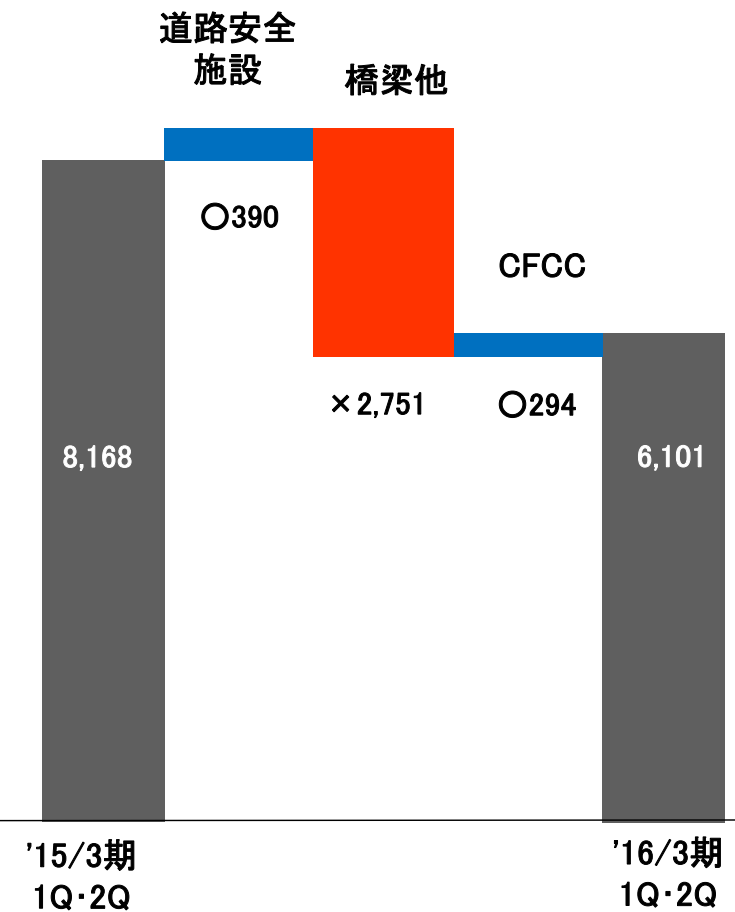
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



セグメント別の状況(営業利益)

鋼索鋼線: 海外エレベーターロープ増益も、国内コスト増により微減益

スチールコード: 改善施策の効果、販売MIXの改善により黒字拡大

開発製品: 国内道路製品の増加、CFCC®の売上拡大により上期黒字化

(金額:百万円)

	15年3月期 第2四半期	16年3月期 第2四半期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼索鋼線	904	890	△14	(△1.5%)
スチールコード	228	275	+47	(+20.6%)
開発製品	△140	127	+267	-
不動産	△22	35	+57	-
その他	163	177	+14	(+8.6%)
合計	1,132	1,507	+375	(+33.1%)

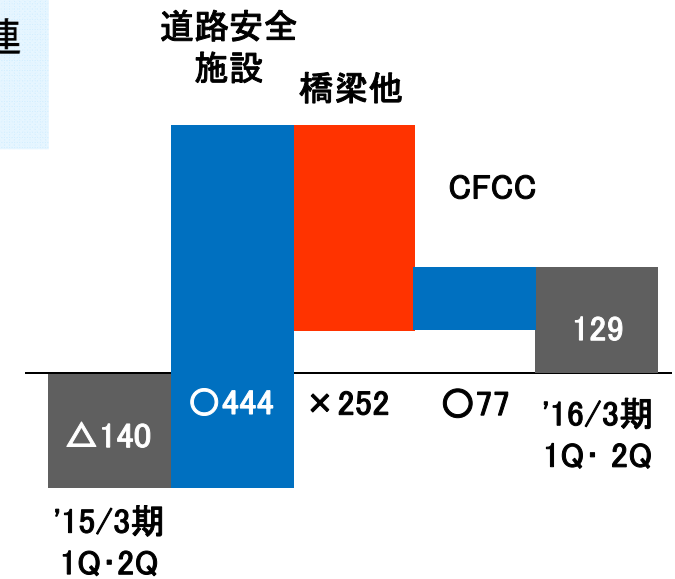
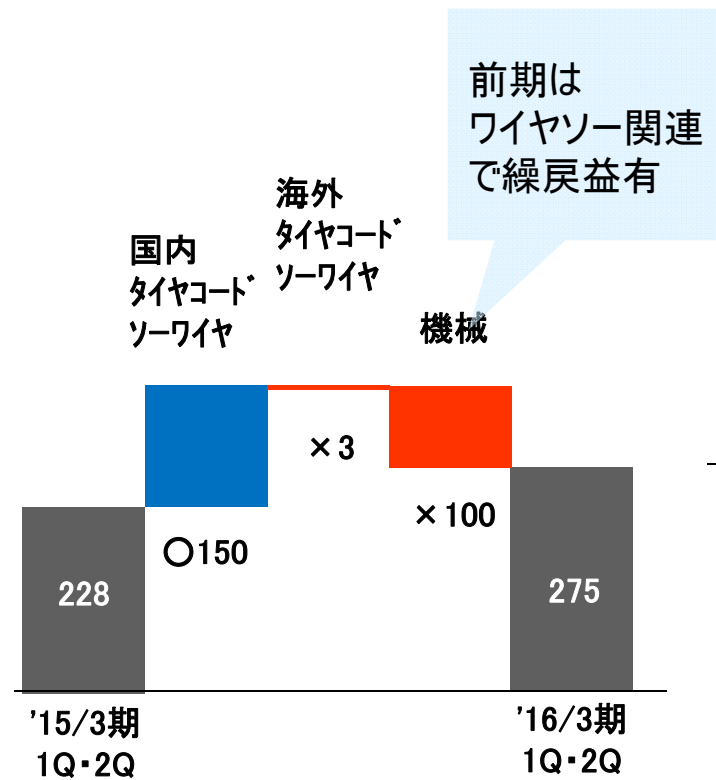
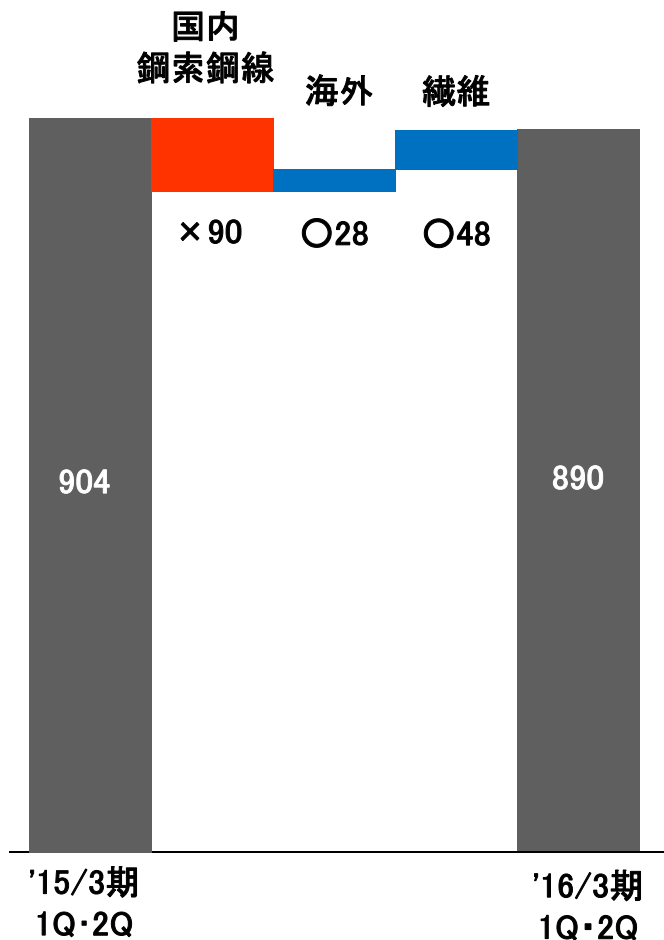
増減要因分析(営業利益)

(単位:百万円)

鋼索鋼線

スチールコード

開発製品



キャッシュ・フロー

営業活動：売上債権の減少

投資活動：国内、海外で固定資産取得

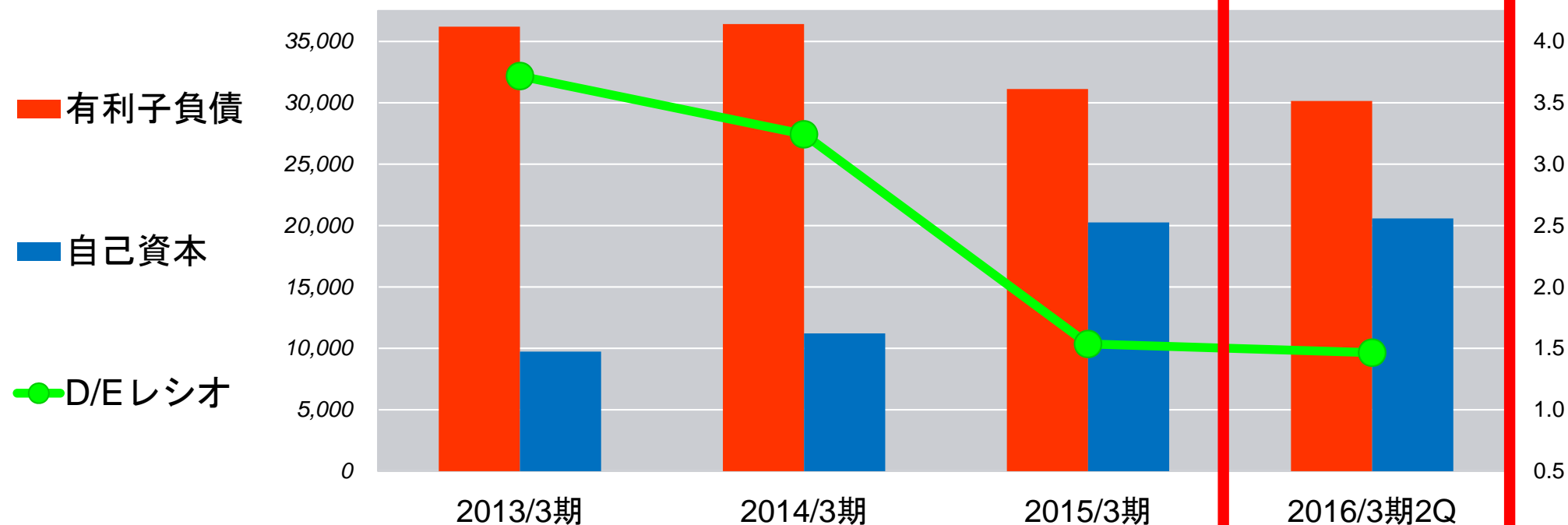
財務活動：A種種類株の取得・消却△30億円、公募・売出による自己株の処分+33億円。他、有利子負債圧縮に注力

(金額：百万円)

	15年3月期 第2四半期	16年3月期 第2四半期
現金及び現金同等物の期首残高	2,172	4,649
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,547	2,759
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 169	△ 1,312
フリー・キャッシュ・フロー	4,378	1,447
財務活動によるキャッシュ・フロー	394	△ 903
その他(為替換算差、新規連結に伴う増加他)	23	△ 369
現金及び現金同等物の期末残高	6,968	4,825

財務状況

(百万円)	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期第2四半期
有利子負債	36,204	36,417	31,126	30,151
自己資本	9,737	11,226	20,262	20,581
D / E レシオ	3.72	3.24	1.54	1.46



1. 2016年3月期第2四半期 決算概要

2. 2016年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

2016年3月期 見通し

海外橋梁プロジェクト案件が終息するものの、インドネシア向けCFCC®の販売拡大等による前期並みの売上計画に変更なし。
一過性要因で、最終減益の見通しも、営業利益は増益

(金額:百万円)

	15年3月期		16年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	73,315	-	73,500	-	+185	(+0.3%)
営業利益	3,948	(5.4%)	4,200	(5.7%)	+252	(+6.4%)
経常利益	4,444	(6.1%)	3,900	(5.3%)	△544	(△12.2%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,822	(5.2%)	3,000	(4.1%)	△822	(△21.5%)

2016年3月期 主要製品見通し(対前年度比)

鋼 索 鋼 線

【国内ワイヤロープ】 市場環境は前年度並み

【海外エレベータ用ワイヤロープ】 ベトナム工場増強効果が通期で寄与し増収

【繊維ロープ】 国内建設需要向け堅調

ス チ ール コ ード

【タイヤコード・ソーワイヤ】 中国タイヤコード市況低迷、高付加価値極細ワイヤ好調

【産業機械】 ダイヤモンドワイヤ対応ワイヤソー受注・売上

開 発 製 品

インドネシア向けCFCC®販売拡大するも海外橋梁案件終息により減収減益

国内は道路付属施設落下防止製品(フェイルセーフワイヤ等)が好調

2016年3月期 セグメント別見通し(売上高)

鋼索鋼線：ベトナム工場増強が通期に寄与し増収

スチールコード：ワイヤソー(機械)売上により増収

開発製品：海外橋梁プロジェクト案件終息により減収

(金額:百万円)

	15年3月期		16年3月期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	28,100	(38.3%)	29,800	(40.5%)	+1,700	(+6.0%)
スチールコード	15,090	(20.6%)	15,900	(21.6%)	+810	(+5.4%)
開発製品	19,789	(27.0%)	17,700	(24.1%)	△2,089	(△10.6%)
不動産	1,143	(1.6%)	1,300	(1.8%)	+157	(+13.7%)
その他	9,191	(12.5%)	8,800	(12.0%)	△391	(△4.3%)
合計	73,315	(100.0%)	73,500	(100.0%)	+185	(+0.3%)

2016年3月期 セグメント別見通し(営業利益)

鋼索鋼線：ベトナム工場増強が通期に寄与し増益

スチールコード：高付加価値極細ワイヤ収益向上・ワイヤソー販売で増益

開発製品：CFCC[®]・道路製品拡大するも海外橋梁案件終息で減益

不動産：リニューアル効果、太陽光発電の寄与により黒字化

(金額:百万円)

	15年3月期	16年3月期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼 索 鋼 線	1,834	1,900	+66	(+3.6%)
スチールコード	582	850	+268	(+46.0%)
開 発 製 品	1,075	950	△125	(△11.6%)
不 動 産	△43	100	+143	-
そ の 他	499	400	△99	(△19.8%)
合 計	3,947	4,200	+253	(+6.4%)

配当方針

16/3期：4.0円の配当を予想

年 度	15/3期	16/3期 予想
配当（年度当り）	無 配	4.0円/株
配当性向（連結）	—	21%

株主の皆様には長年にわたり多大なるご迷惑をおかけしました。これまでのご支援に感謝申し上げます。

継続的かつ安定的な配当を行うため、引続き事業創造に邁進し、更なる収益力強化などを通じて、企業価値の向上に努めてまいります。

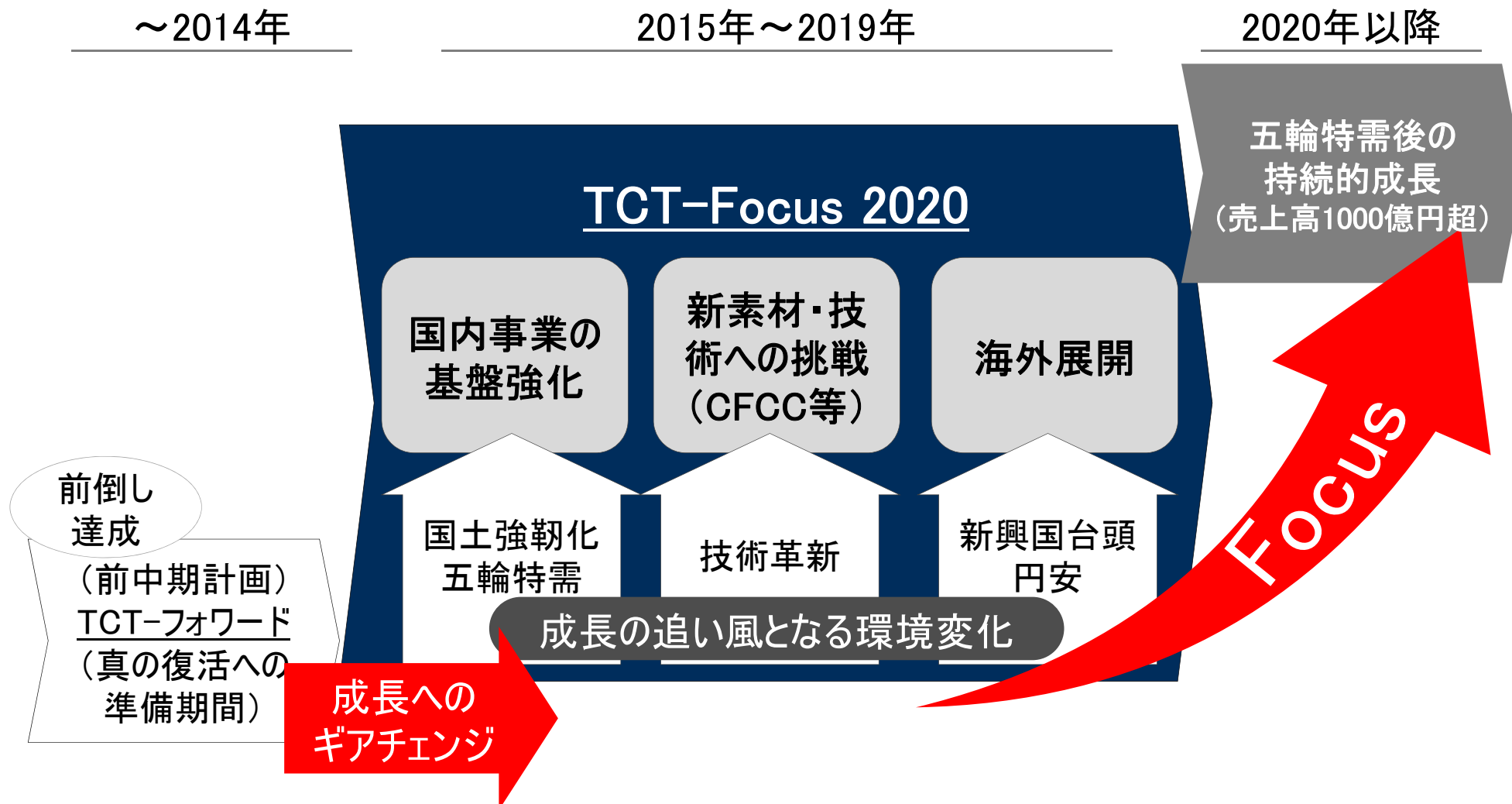
1. 2016年3月期第2四半期 決算概要

2. 2016年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

中期経営計画の基本コンセプト

五輪特需が終息する2020年以降の持続的成長を見据え、その礎を固める中期経営計画。
この実現に向け、「国内事業基盤の強化」、「新素材・新技術への挑戦」、「海外展開」の3点にフォーカスして、全事業の活性化に当社グループ一丸となって挑戦する



中期経営計画 “TCT-Focus 2020”を構成する5つの主要施策

鋼索鋼線	F oreign	<ul style="list-style-type: none"> ・セグメントの<u>海外売上比率25%</u>を目指す(足許17%) <ul style="list-style-type: none"> - <u>エレベーターロープ</u> 中国における当社ロープ採用機の交換需要を捕捉、加えて緊密販売先の拠点拡充(東南アジア・インド等)にも対応する - <u>繊維ロープ</u> 海洋国家のロープメーカーとして125年の業歴で培った技術を活かし、世界の船舶・海上構造物用スーパー繊維ロープ市場に進出する
S C	O utclass	<ul style="list-style-type: none"> ・超高強度ワイヤに極細伸線技術を応用し、<u>ファインワイヤ製品等の高付加価値品</u>を強化し、製品種の拡充と利益率向上を図る
開発製品	C FCC	<ul style="list-style-type: none"> ・スチールよりも軽量・高強度な<u>CFCC®</u>(炭素繊維複合材ケーブル)の特性を生かし、スチールワイヤ製品の置換を図る
	U tilities	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で好評価を得ている防災製品を、中央アジア・中東諸国の<u>公共施設・機関</u>に展開し、イスラム圏でのデファクトスタンダード化を狙う
その他	S peed	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社の日本特殊合金は、ニッチではあるが世界的に需要が見込まれる精密切削工具用新素材の外販に注力し、<u>5年間で売上高倍増</u>を図る

現段階で進捗する3つの施策についてご説明

鋼索鋼線	F oreign	<ul style="list-style-type: none"> ・セグメントの海外売上比率25%を目指す(足許17%) <ul style="list-style-type: none"> - <u>エレベーターロープ</u> 中国における当社ロープ採用機の交換需要を捕捉、加えて緊密販売先の拠点拡充(東南アジア・インド等)にも対応する - <u>繊維ロープ</u> 海洋国家のロープメーカーとして125年の業歴で培った技術を活かし、世界の船舶・海上構造物用スーパー繊維ロープ市場に進出する
S C	O utclass	<ul style="list-style-type: none"> ・超高強度ワイヤに極細伸線技術を応用し、<u>ファインワイヤ製品等の高付加価値品</u>を強化し、製品種の拡充と利益率向上を図る
開発製品	C FCC	<ul style="list-style-type: none"> ・スチールよりも軽量・高強度な<u>CFCC®</u>(炭素繊維複合材ケーブル)の特性を生かし、スチールワイヤ製品の置換を図る
その他	S peed	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社の日本特殊合金は、ニッチではあるが世界的に需要が見込まれる精密切削工具用新素材の外販に注力し、<u>5年間で売上高倍増</u>を図る



CFCC®の世界展開 進捗状況

1. 初の量産案件：インドネシア送電線向（メダンプロジェクト※）の納入開始
2. 国内工場（愛知県蒲郡市）の追加能力増強（年産2,500km）を優先
3. 国内増強優先のためミシガン州の新工場立上は7月以降となる見通し（第一期能力1,000kmに変更なし）
4. 国内土木案件も進行

※北スマトラ メダン市周辺の増容量プロジェクト。当社は2区間（亘長112km）を受注。一部通電開始



沖縄県伊良部大橋のコンクリート補強材に採用

防災製品の海外拡販 進捗状況

1. 中東

- サウジアラムコとベンダー契約、サウジアラビアの現地有力社と代理店契約締結。複数案件具体化

2. 西・中央アジア

- JICAの「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」にてジョージア国での事業展開が始動
- 首相の中央アジア各国歴訪に随行 各国で防災案件が具体化



カザフスタンメデウ地区落石対策実績



安倍首相、当社中村(中)、ナザルバエフ大統領(右)

Speed

精密切削工具用素材の拡販 進捗状況

1. 複雑な形状の工具が求められる自動車産業をエンドユーザーとしてターゲティング。大手工具メーカーとの緊密商談を開始
2. マザー工場設立のため約4億円の投資
愛知県蒲郡市の所有地内に新工場建設着手
3. 高度先端技術を対象とする「新あいち創造産業立地補助金」の補助対象案件に採択



当社完成品



ユーザー製品イメージ

当社グループが目指す5年後の姿

●定性的目標

2020年以降の持続的成長にフォーカスし、この5年間でその礎を築くべく、「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」によって、グローバル市場での競争力強化を図り、より一層社会に貢献できる企業価値の高いエクセレントカンパニーとなることを目指す

●計画最終年度の定量目標(20/3期)

売上高	900億円以上	海外 売上比率	25%以上 (例年13%の約2倍)
営業利益	78億円以上 (15/3期実績の倍)	EBITDA	100億円以上
ROE	14%以上 (財務体質改善との両立を目指す)	D/Eレシオ	0.6以下 (ROEの維持との両立を目指す)

(参考)2020年以降のチャレンジ

- ① 売上高1000億円超へ ② JPX日経400の採用銘柄へ

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。